

## (2) 鉄道貨物の輸送状況

鉄道貨物の輸送量は、平成2年以降、バブル崩壊に伴う不況の影響、阪神淡路大震災等の自然災害の影響等もあり、減少傾向にあったが、平成22年度以降は微増減を繰り返しながらも若干の増加傾向となっている。

日本貨物鉄道 株式会社(昭和62年4月発足)では、鉄道事業黒字化に向けて、平成31年3月に「JR貨物グループ 中期経営計画2023」を策定し、経営努力を続けている。

また、鉄道貨物の貨物利用運送事業者で作る業界団体においても、実績向上を目指して、新規荷主向けの費用一部助成キャンペーンを行うなど、様々な取組を行っている。

九州管内においては、平成14年3月に北九州貨物ターミナル駅の開業、平成19年度からの工事による福岡駅待避線延伸、平成23年3月に福岡貨物ターミナル駅改良工事終了により輸送力増強が行われ、長編成化(26両編成、1,300トンけん引)、E & S(着発線荷役)方式によるコンテナ貨物輸送の更なる効率化が図られている。

平成31年3月のダイヤ改正により、関東ー関西間のコンテナ列車の九州延伸や、東海ー九州間の自動車部品輸送の開始、更には、平成30年7月豪雨による鉄道貨物輸送100日間寸断を教訓とした自然災害時のBCP対策強化等、「強い物流」を目指した取り組みが実施されている。

## (ア) 九州の鉄道に係る貨物運送事業の駅別実績

【令和2年度】

(単位:トン)

順位	駅名	発送	到着	計
1	福岡貨物ターミナル駅	614,479 (614,479)	1,540,975 (1,540,975)	2,155,454 (2,155,454)
2	北九州貨物ターミナル駅	407,247 (407,247)	504,361 (504,361)	911,608 (911,608)
3	鳥栖貨物ターミナル駅	129,970 (129,970)	340,344 (340,344)	470,314 (470,314)
4	熊本駅	127,662 (127,662)	191,153 (191,153)	318,815 (318,815)
5	鍋島駅	124,649 (124,649)	84,090 (84,090)	208,739 (208,739)
6	鹿児島貨物ターミナル	65,764 (65,764)	119,084 (119,084)	184,848 (184,848)
7	西大分駅	65,694 (65,694)	63,505 (63,505)	129,199 (129,199)
8	八代駅	79,702 (79,702)	24,972 (24,972)	104,674 (104,674)
9	都城ORS	43,801 (43,801)	27,084 (27,084)	70,885 (70,885)
10	川内駅	53,124 (53,124)	6,167 (6,167)	59,291 (59,291)

資料:九州運輸局自動車交通部貨物課

※1. 取扱量の多いものから10駅を記載。

2. ( )書きは、コンテナ扱いで内数。